



Japan. Endless Discovery.

新型コロナ収束後の 訪日教育旅行の取組

JATAインバウンドWEBセミナー

2020年 8月25日(火)

長野県長野高等学校海外交流アドバイザー
長野県上田高等学校海外交流アドバイザー
長野県松本空港国際化 特別顧問
(株)日本旅行営業顧問
恵崎 良太郎



日本一格式高い「上田高等学校の校門・古城の門」
上田市文化財 上田高等学校



えざき りょうたろう

恵崎 良太郎

長野県長野高等学校海外交流アドバイザー
長野県上田高等学校WWL海外交流アドバイザー
長野県松本空港国際化 特別顧問
(株)日本旅行営業顧問
千曲市インバウンド振興アドバイザー

➤経歴

- ・昭和40年(1965年)(株)日本旅行入社
小諸、上田、福井、金沢、長野で勤務、担当及び支店長、国内旅行部仕入販売センター所長を務める。
 - ・平成15年(2003年)信州・長野県観光協会事務局長(出向)、常務理事、長野県学習旅行誘致推進協議会常務理事
 - ・平成27年4月1日 長野県観光部観光誘客課国際観光推進室 学習旅行相互交流推進員
 - ・平成29年4月1日 長野県観光部 国際観光推進 特別顧問
 - ・平成30年4月1日 長野県松本空港国際化 特別顧問
 - ・平成31年3月20日(株)日本旅行営業顧問
 - ・平成31年4月1日 千曲市インバウンド振興アドバイザー
 - ・令和1年10月1日 長野県長野高等学校海外交流アドバイザー
 - ・令和2年7月1日 長野県上田高等学校WWL海外交流アドバイザー
- 現在に至る

本日の内容



Japan. Endless Discovery.

I. 訪日教育旅行の意義について

II. 長野県の訪日教育旅行の取組み

III. 長野県の訪日教育旅行の受入実績

IV. 相互交流の推進

V. 新型コロナ収束後の訪日教育旅行の具体的な取り組み

海外の学校の先生、旅行会社、日本の学校の先生、旅行会社にアンケート、聞き取り調査しましたことを基に具体的な取り組みを説明いたします。



I. 訪日教育旅行の意義について

訪日教育旅行の意義

- 受入地域におけるリピーターの獲得
- 日本の児童・生徒の国際理解、生きた外国語に触れる
- 未来志向の国際関係を築く



国が推進している訪日外国人の目標を達成するには、訪日教育旅行の取組強化は不可欠であると思います。一時的な観光客の増加ではなく、国内外に限らずリピーターを増やすためにも、将来を担う若年層への訴求が極めて有効です。長野県としても、訪日教育旅行を、重要な柱と位置づけています。

日本の学生にとっても、外国に出かけずして異なる文化・生活・習慣を持つ同世代の若者との交流が出来る海外教育旅行の受入は、異文化を直接体験し国際理解を深め、人々との交流は真のコミュニケーションを培い友情を育てることができます。このため教育旅行誘致は、各地方自治体とも力を入れて取り組み、モデルコース・体験プログラムの作成、教育委員会との連携による交流校の紹介などを活発に行っています。

Ⅱ．長野県の訪日教育旅行の取組み



Japan. Endless Discovery.

受入体制の充実(安心・安全に配慮)

I 関係機関との連携

Ⅱ 交流受入校の拡大

Ⅲ 窓口の一元化



- ・長野県教育委員会、長野県観光部、国際課、(一社)長野県観光機構、市町村教育委員会、市町村観光課との連携(各部門とのコミュニケーションが大事です)
 - (一社)長野県観光機構はコーディネーターとして受入が円滑に進むよう取り組む
- ・(一社)長野県観光機構に元校長先生の配置、中国語、英語の堪能な職員の配置
 - 当初は交流校確保のため長野県教育委員会に訪日教育旅行の担当を配置
- ・県高校校長会、市町村(小中学校)の校長会へ出席し訪日教育旅行の受入について説明し理解を広げる
- ・私立学校(小、中、高)、高専、大学、専門学校を訪問して訪日教育旅行の受入について説明し理解を広げる
- ・農家民泊、ホテル、旅館、体験施設、医療機関、通訳と連携して安心・安全で充実した受入体制を構築
- ・窓口の一元化
 - (一社)長野県観光機構で責任を持って交流校を紹介(安心感・信頼の構築)
- ・多様な交流の提案
 - 一般的な学校交流の他にSDGs(持続可能な開発目標)、WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、協同研究・解決策を話し合う、吹奏楽、各種スポーツ、人形劇、テーマを決めてのプレゼンテーション、訪問前にオンラインによる交流(英語)等各受入校特徴ある交流を推進しています。

Ⅱ．長野県の訪日教育旅行の取組み

➤交流受入校への支援（受入校の確保と訪日教育旅行扱い数はリンクします）

受入校を確保するための「学校の負担の軽減」

- ・交流受入校に関する「サポートマニュアル」を作成配布（受入の手引き）
- ・交流校の資料を早めに提供する
- ・学校を訪問して事前の打ち合わせをする
（小、中の場合は市町村教育委員会、観光課の担当者も同行）
- ・交流経費の一部負担
- ・記念品の提供（記念品交換）
- ・交流日当日、担当者、通訳の同行
- ・歓迎横断幕、見送り横断幕の用意
- ・その他相談に応じてサポートする
- ・交流校との信頼の構築



Ⅲ. 訪日教育旅行の実績



Japan. Endless Discovery.

➤長野県訪日教育旅行 受入実績

2018年度実績 年間 176団体 5,823名



- ・長野県の訪日教育旅行の受入は、2005年1月「台湾訪日教育旅行視察団」一行95名（教育部・校長33名、教師48名、生徒等14名）を受け入れたことが突破口になりました。
- ・長野県観光振興基本計画に県として訪日教育旅行の誘致をインバウンドの重要な柱と位置づける。

Ⅲ. 訪日教育旅行の実績



Japan. Endless Discovery.

➤長野県訪日教育旅行 年間176団体、5,823名の実績

主な国・地域別内訳(2004年～2018年) 出典:長野県観光部国際観光推進室

年度	団体数	人数	香港		台湾		韓国		中国		オーストラリア		シンガポール		その他	
			団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
H16(2004)	2	89	2	89												
H17(2005)	13	633	2	26	11	607										
H18(2006)	16	1191	1	16	13	661	2	514								
H19(2007)	37	2036			26	1187	4	239	6	595	1	15				
H20(2008)	40	1973	1	77	23	1115	1	20	11	647	3	92	1	22		
H21(2009)	51	2047	1	70	27	1072	4	146	14	605	2	68	3	86		
H22(2010)	107	5140	1	22	43	1928	2	58	54	2954	2	41	3	89	2	48
H23(2011)	41	1329	2	86	17	765	2	48	15	356	2	26			3	48
H24(2012)	99	3908			53	1983	4	158	36	1616	2	44	1	54	3	53
H25(2013)	122	4457			78	3091	7	249	15	484	2	41	3	54	17	538
H26(2014)	114	4152	1	31	62	2425	1	11	34	1182	1	25	3	111	12	367
H27(2015)	136	4313			46	1536	2	67	69	2172	5	101	2	46	12	391
H28(2016)	142	4557	1	4	59	2152	1	36	68	2034	4	90	2	55	7	186
H29(2017)	161	5444	1	52	43	1581	4	59	91	3256	8	238			14	258
H30(2018)	176	5823	0	0	56	1766	0	0	103	3590	6	115	1	42	10	310
累計	1257	47092	13	473	557	21869	34	1605	516	19491	38	896	19	559	80	2199

※平成26年度 その他の国:タイ2団体84名、インドネシア1団体11名、ミャンマー3団体54名、カンボジア1団体25名、欧米(8か国混合団)1団体58名、ベトナム1団体27名、インド1団体32名、フィリピン2団体76名

※平成27年度 その他の国:フィリピン1団体82名、ニュージーランド2団体43名、インドネシア1団体9名、ベトナム2団体48名、アメリカ1団体75名、モンゴル1団体18名、CISV団体49名、ASEAN団体20名、大洋州2団体47名

※平成28年度 その他の国:インドネシア2団体41名、モンゴル1団体36名、アメリカ1団体31名、ニュージーランド1団体10名、CISV団体45名、ソロモン諸島23名

※平成29年度 その他の国:アメリカ4団体50名、タイ2団体56名、ニュージーランド1団体21名、インド1団体14名、インドネシア1団体5名、マレーシア1団体16名、ドイツ1団体16名、トルコ1団体10名、東南アジア諸国団体30名、CISV団体40名

※平成30年度 その他の国:インドネシア4団体154名、マレーシア2団体22名、フランス1団体27名、東南アジア諸国団体他107名

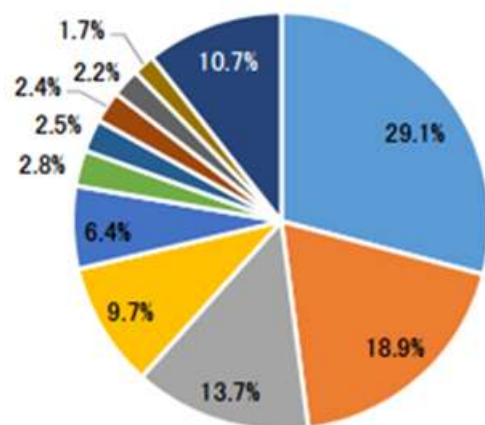
Ⅲ. 訪日教育旅行の実績

全国の訪日教育旅行 受入実績

➤ 2013(平成25)年度 訪日教育旅行受入実績

観光庁と文部科学省による報道資料より

【図2】国・地域別訪日教育旅行受入実績(平成 25 年度)



【表2】都道府県別訪日教育旅行受入実績上位 10 位(平成 25 年度)

順位	都道府県	受入団体数	受入者数
1	東京都	218	4,084
2	長野県	112	3,702
3	大阪府	169	3,549
4	兵庫県	126	2,671
5	京都府	131	2,076
6	福岡県	106	1,898
7	広島県	114	1,888
8	千葉県	104	1,607
9	愛知県	98	1,594
10	静岡県	58	1,534
その他 37 県		1,103	19,900
計		2,340	44,503

※ 数値は、域内の国立・公立・私立の小学校・中学校・高等学校等の延べ数。

出典：文部科学省

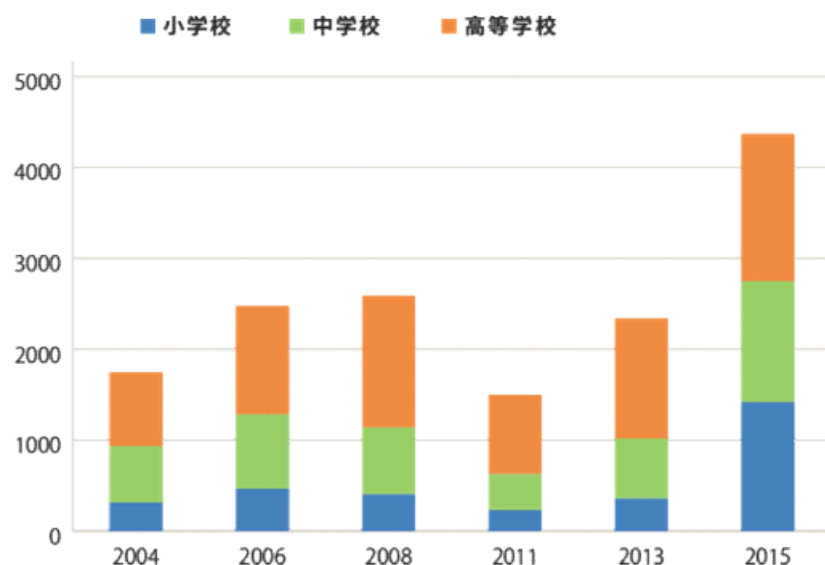
Ⅲ. 訪日教育旅行の実績



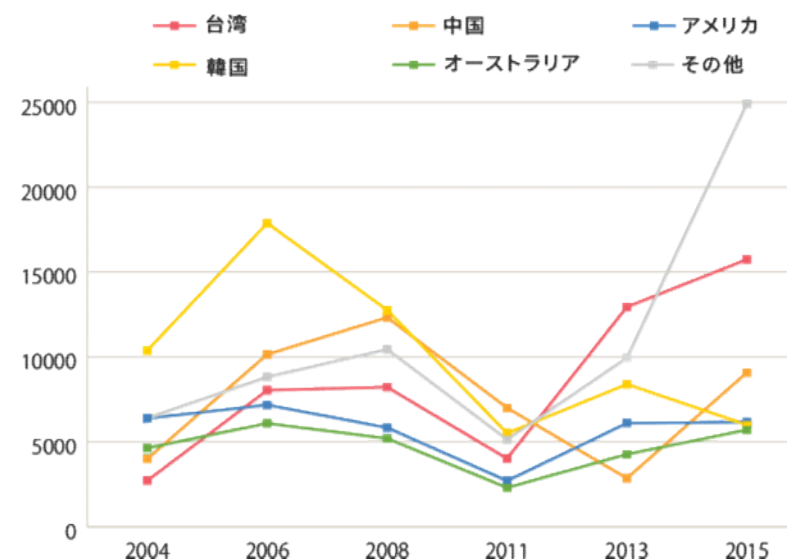
Japan. Endless Discovery.

海外からの訪日教育旅行 受入実績

➤ 受入実施学校数の推移



➤ 国・地域別訪問者数の推移



出典: 文部科学省「平成27年度高等学校等における国際交流等の状況について」

日本各地で訪日教育旅行の受入が行われており、2015年度には延べ4,000校を超える小学校・中学校・高等学校で交流が行われました。日本はアジアを中心に教育旅行の訪問先として人気を集め、2015年度の訪日教育旅行生は65,000名を突破しています。

IV. 相互交流の推進



Japan. Endless Discovery.

海外の学校、旅行会社の皆様に対する取り組み



- ・希望の交流校を紹介する(如何に交流校を確保するかにかかっています)
- ・国内外の旅行会社の皆さんと緊密に連携して誘致を進めることが大変重要です
- ・国ごとにニーズを把握してキメの細かい対応をする

国によって実施時期、人気のテーマ、求める情報、実施プロセスが異なります

交流申請書の提出(必須)

(学校の情報及び交流に対する希望を記入していただく)

- ・成熟市場 台湾 ・成長市場 中国 ・将来市場 アセアン分類しています
- ・各国の人口(誘致をする場合押さえておきたい市場規模)

中国13億人、韓国5,200万人、台湾2,300万人、香港741万人、
オーストラリア2,520万人、シンガポール561万人

IV. 相互交流の推進



Japan. Endless Discovery.

海外修学旅行の推進(相互交流の推進)



近年文部科学省のSGH(スーパーグローバルハイスクール)等により多くの学校が海外修学旅行、研修旅行を実施するようになりました。

従来は「平和について学び、考え、行動する」を目的の一つに設定し、沖縄修学旅行を実施してきました。学校として修学旅行で何を学ばせたいかという議論があります。

生徒を取り巻く環境、社会の変化もあり、今後、今以上に国際化が日本でも進む状況になっています。語学力の重要性、世界のグローバル化もあり日本企業は国内のみを市場とするのではなく海外をも市場にシなくては生き残ることはできない。

以上のような背景もあり、国際的な視野を広げ異文化交流をする中で相手を尊重することを学び、日本文化を見つめ直すことができます。

また、海外から多くの学校が長野県を訪問して交流することにより海外への興味を惹かれたこともあります。

長野県では昨年(2019年)19校2,712名が海外修学旅行・研修旅行を実施しました。

結果、相互交流が実現し姉妹校協定が締結され学校もありより深い多様な交流ができるようになりました。

海外の交流校の紹介、現地での学校交流、企業訪問等(フィールドワーク)のサポートをしています。

IV. 相互交流の推進



Japan. Endless Discovery.

海外修学旅行の推進(相互交流の推進) 出典:台湾国際教育旅行連盟総会

➤ 台日教育旅行

台湾から日本

年度	訪日校数	訪日人数
2008	130	6,170
2009	110	4,650
2010	136	5,484
2011	65	2,680
2012	155	6,194
2013	176	7,171
2014	186	6,971
2015	257	9,391
2016	260	9,873
2017	267	9,123
2018	271	8,623
2019	212	6,903
合計	2,225	83,233

日本から台湾

年度	訪台校数	訪台人数
2008	48	5,357
2009	47	7,141
2010	59	4,234
2011	83	9,307
2012	123	12,137
2013	153	13,744
2014	165	16,444
2015	254	24,212
2016	322	36,192
2017	329	38,060
2018	369	37,765
2019	369	36,602
合計	2,321	241,195

➤ 台韓教育旅行

台湾から韓国

年度	訪韓校数	訪韓人数
2008	9	304
2009	6	146
2010	7	324
2011	23	639
2012	22	806
2013	26	1,044
2014	18	471
2015	19	698
2016	28	920
2017	43	1,319
2018	62	1,869
2019	71	2,234
合計	334	10,774

韓国から台湾

年度	訪台校数	訪台人数
2008	9	513
2009	2	76
2010	10	262
2011	23	722
2012	31	982
2013	20	999
2014	20	464
2015	25	906
2016	27	972
2017	19	751
2018	45	1,328
2019	63	2,292
合計	294	10,267

➤ 台湾教育旅行 地域別

2019年実績(学校数)

台湾から日本		
1	東京都	24
2	大阪府	20
3	長野県	16
4	千葉県	11
5	広島県	10
6	京都府	9
	静岡県	9
7	群馬県	8
8	宮城県	7
	福岡県	7
9	栃木県	6
	三重県	6
	愛知県	6
	岡山県	6
10	埼玉県	5
	北海道	5
	滋賀県	5
	合計	160

日本から台湾		
1	大阪府	35
2	広島県	33
3	東京都	24
4	長野県	23
5	愛知県	19
6	静岡県	16
7	千葉県	14
8	京都府	13
9	神奈川県	12
10	北海道	11
	山形県	11
	合計	211

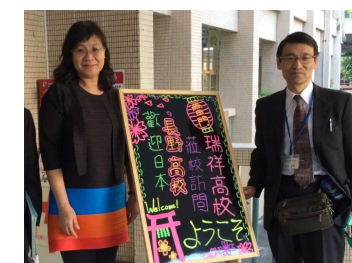
➤ 台湾から日本への教育旅行交流プログラム統計(訪問団数)

姉妹校交流	72
授業体験	162
クラブ活動体験	129
手作り体験	125
市街地探検	128
ホームステイ	129
社会文化体験	132



➤ 日本から台湾への教育旅行交流プログラム統計(訪問団数)

姉妹校交流	138
授業体験	251
クラブ活動体験	198
手作り体験	195
市街地探検	86
ホームステイ	56
社会文化体験	137



V. 新型コロナ収束後の具体的な取り組み



Japan. Endless Discovery.

V 新型コロナ収束後の訪日教育旅行の具体的な取り組み

海外の学校の先生、旅行会社、日本の学校の先生、旅行会社にアンケート、聞き取り調査しました
ことを基に具体的な取り組みを説明いたします

各地域の特徴ある体験、学校交流を構築することが大事です

そして近隣の自治体(県をまたいで)の広域連携が重要です(一地域で多くの学校の受入は難しい)

- ・従来と違う形になります。現在のような大規模学生団体は無くなり小人数になります。

新型コロナに配慮した新しい交流の形を作る必要があります。

- ・復活するには時間がかかります。但し、香港の高校からは既に申込みがあります。

長野県では2004年は受入校が2校、89名でした、2018年は176校5,823名です。14年間かかりました。中長期的に見る必要があります。

現在は文科省のSGH、WWLなどもあり国際交流に積極的な学校も多くなっています。

- ・予防対策と感染時対策がキーポイントです(安全・安心)

- ・海外の訪日教育旅行に積極的な学校から旅行会社と連携して受入を始める

- ・日本の受入に理解のある学校と連携して受入を始める

- ・自治体では既に県内の学校に対する取り組み、海外の学校に対する取り組み、旅行会社の皆様への連絡打合せが始まっています

V. 新型コロナ収束後の具体的な取り組み



Japan. Endless Discovery.

- ① 危機対応の要諦は予防策に尽きると思います。
- ② 発生時対策は各分野でのマニュアル整備を行い、マニュアルに従い対処する
- ③ リスクマネジメント(予防対策)・・・考え得る感染予防策の徹底
クライシスマネジメント(発生時対策)・・・感染者の処遇(医療分野)
クラスター対応(県や保健所等関係機関分野)
同行者の対応(主催者分野)
接触者・施設の対応(観光事業者機関分野)
外部対応(保護者、受入機関、マスコミ等は主催者分野)
- ④ 学校交流
 - ・海外の訪問校と受入校との詳細な打合せを実施(参加人数、交流内容等)
 - ・検温・マスクは必須で必要に応じてフェイスシールド
 - ・歓迎セレモニーやパフォーマンスは換気した体育館など、広いエリアでお互いのグループが10m以上の距離を保ちながら実施する
 - ・授業体験は、扉・窓を全開又は外した状態で、廊下からの参観を中心に行い、授業交流を行う際には、マスクとフェイスシールド、机と机の間にシールドを設置するなど何重もの予防対策を行う。
(要は安心感と「そう言えばあの時に」という場面を排除する工夫)
 - ・ディスカッションも、広いエリアでお互いのグループ距離を十分確保する
 - ・市内散策ではマスク着用で、ソーシャルディスタンスの確保

V. 新型コロナ収束後の具体的な取り組み



Japan. Endless Discovery.

- ⑤ 予防対策・発生時対策の理解とマニュアルの徹底
 - ・ガイドラインの徹底
 - ・安全・安心キャンペーン→そのためには地域から感染を出さない県民あがての取り組み協力がベース
 - ⑥ オンライン交流(今年のように現地を訪問しての交流が出来ない場合等)
 - ・長野県の高校 4校、中学校 5校
 - G suite/Google for Education、マイクロソフトTeams、Google Meetを利用しています
 - ・長野県の学校 4名・海外の交流校 4名、テーマを決め英語で交流
 - ・使用機器をはじめ事前の打合せが必要です
 - ・交流する国、地域の事前学習
 - ⑦ 長野県の市町村(教育委員会含む)、学校に対するアンケート(学校交流受入について)
 - ・新型コロナが収束し、政府が入国許可を出した場合
 - ・台湾、中国及び豪州等が海外教育旅行の許可を出した場合
 - ・訪日国の新型コロナが収束されている場合
 - ・日本国内や長野県の新型コロナが収束状況にある場合
 - ・受入にあたり、学校全体の同意、生徒・保護者、地域の同意が必要
 - ・収束も見通しが立たないので、現在は想定出来ない(学校での通常授業もまだ模索中)
- 新しい生活様式への発想の転換と考えれば、オンラインでの交流から始める
「以前に戻る」ことを急がず、もう戻れないと考え新しい交流の形の検討も必要

V. 新型コロナ収束後の具体的な取り組み



Japan. Endless Discovery.

- ・学校交流前に都市部周辺の見学がない場合(学校によって異なります)
- ・新型コロナ収束後であれば、今までの交流&新たな取り組みも全て可能。その判断は、国や県レベルで大丈夫となれば、実施可能(学校によって異なります)
- ・渡航前の健康(検温を含む)チェックがされている場合
- ・渡航前のPCR検査で陰性と証明された場合
- ・訪日教育旅行期間中の検温や健康チェックが定期的に実施される場合
- ・受入側、海外からの訪問校双方のマスクの着用
- ・各自が上履を持参出来る場合
- ・消毒液を準備出来る場合
- ・必要に応じてフェイスガードの着用が出来る場合
- ・交流時間が3時間以下の場合(学校によって異なります)
- ・海外の学生の小人数化 40名→20名程度(学校によって異なります)
- ・昼食交流を行わない場合(学校によっては広い場所で、小人数であれば可能)
- ・全校生徒による歓迎セレモニーは感染リスクがあるため、交流クラスと訪問校
- ・パフォーマンスは一定の距離をとれば可能
- ・班別による市内散策は小人数であれば可能
- ・授業体験は難しい、多くの学校では40名程度で授業を行っています。距離をとるのが難しい状況(学校によっては小人数ならば可能)

V. 新型コロナ収束後の具体的な取り組み



Japan. Endless Discovery.

⑧ 海外の学校に対するアンケート(要望も多くあります)

- ・新型コロナが収束し、政府が入国許可を出した場合
- ・台湾、中国及び豪州等が海外教育旅行の許可を出した場合
- ・日本国内や長野県の新型コロナが収束状況にある場合
- ・徹底した防疫対策をして欲しい
- ・従来通り、歓迎セレモニー、パフォーマンス、授業体験、部活体験(剣道・華道・弓道・書道の希望が多い)

市内散策(班別)希望(メインとして授業体験、部活体験)

- ・オンライン交流する前に、生徒達がLINE、E-mail等でコミュニケーションをする

テーマ: 国際問題、自然科学、芸術文化、地域の特徴、学校生活、礼儀・マナー

学科研究(多くの学校が希望しています)

(海外の学校のオンライン交流は日本より進んでいる、日本の先生の感想です)

V. 新型コロナ収束後の具体的な取り組み



Japan. Endless Discovery.

- ・全員マスクの着用
- ・農家民泊 出来れば2泊したい、ホストファミリーの家が防疫対策を確実にほしい
民宿とかホテルではなく本当の農家に小人数で泊まりたい、また、温泉ホテル、都会のビジネスホテル、リゾートホテルなどタイプの違う宿泊施設を体験させたい
- ・ホテル・旅館 防疫対策を確実に、食事時間をずらす、人数制限、
会議とパフォーマンスのリハーサルのため、広い会場(宴会場)の提供
- ・食事店 出来れば食卓に仕切り板、間隔を開ける、果物、郷土料理や特徴的な食べ物の提供
- ・見学施設 防疫対策を確実に、観光スポットにボランティアガイドの説明があると良い、日本特有の古跡文化遺産、是非アレンジして欲しい、松本城、善光寺、博物館、美術館等
- ・ここ数年、個人旅行ブームなっています、修学旅行のコースにも一日都会観光を企画します。
(一日電車で都会観光)生徒募集する際集めやすい、
また、例年参加した生徒はほとんど東京、大阪に行くのが希望です(大型テーマパークが人気)
しかし、学校によっては東京、大阪に行かなくもよいとの学校もあります
名古屋、静岡、富山イン、アウトも考えている
都会は人口が多いため、マスク着用、密集する場所を避けること等の防疫対策を教える

V. 新型コロナ収束後の具体的な取り組み



Japan. Endless Discovery.

⑨ 旅行会社の皆様の見通し(予防対策・発生時対策を徹底)

- ・新型コロナが収束して政府による規制が緩和され、観光旅行が可能になった場合、徐々に団体旅行が回復します。

9月末に規制緩和であれば10月に出発する団体もあります。

日本の感染の収束状況で延期になります。

- ・訪日教育旅行は規制緩和後、実施する学校と慎重に様子を見る学校の両方が出てきます。

実施する学校が順調であれば、慎重な学校も実施するようになります。

- ・新型コロナ収束後、訪日教育旅行は学校として多分感染者数が少ない地方がメインになります。

しかし、地方空港は便数が少ないのでどうしても成田空港か関西空港の入国になり、都市で電車による自由散策をしないで、地方で自由散策のプランを提供しないといけないと思います。

- ・新型コロナ収束後、訪日教育旅行は復活します、目的地としては、大都会に限らず、特別学習や体験内容があればよい、今の学校は事前学習や学習の深さ、広さを重視しますので、従来の教育旅行と違う内容を考える必要があります

- ・日本の感染者がゼロにならないと訪日教育旅行は難しい



今が真価を試されるときです。もう一度足元を見直し、次の戦略をどうするか冷静に考える時だと思います。

訪日教育旅行を通じて、各国における長野県の知名度が徐々に向上していると実感しています。

実は、口コミが極めて重要で、長野県で学校交流をした学校が、自校あるいは近隣の学校に「大変良かった」と語っていただくことが大切なのです。

今回は新型コロナ収束後の訪日教育旅行のあり方について、多くの海外の学校の先生、受け入れる日本の学校の先生、旅行会社の皆様にご協力いただきありがとうございました。

御礼申し上げます。

今後は新型コロナ収束後に対応した新しい訪日教育旅行を構築していきたいと考えています。

ご清聴ありがとうございました。



長野県観光PRキャラクター「アルクマ」
©長野県 アルクマ